

環境省 持続可能な開発目標（SDGs）活用した
地域の環境課題と社会課題を同時解決するための民間活動支援事業
＜2カ年事業計画＞

「環境・農業・観光が調和した岩 室温泉街の持続的なまちづくり」

一般社団法人おらって新潟市民エネルギー協議会

①- 1 地域課題の整理

■ 地域の状況や課題背景

・【再生可能エネルギー分野】

再生可能エネルギー（以下、再エネ）を活用した自立型のエネルギー利用の構築やそれが持つ自然災害への対策効果の認知度が低く、さらに旧来型エネルギーが存在し、これに対する無意識な依存体質があること、またこれに起因する地球温暖化対策に対する取組が少ない。

・【低炭素型社会に向けた意識の低さ】

当該地域は自然と調和したライフスタイルに関心が高い地域にも関わらず、環境課題配慮型の事業開発までは至っていない。また、環境課題の解決や取り組みが、地元への収益性や若者雇用と挑戦の実現などに繋がることに対してのイメージも薄い現状を抱えている。

・【地場産業・自然環境整備と地域リーダーの担い手不足】

自然が豊かな地域として、認知度も上がってきているが、里の生態系を維持している農業や保全活動を支える団体の高齢化が深刻化している。また、観光業を牽引していくリーダー人材の発掘も同様に地位全体の担い手不足は喫緊の課題である。

・【所要産業である「温泉観光」と「農業」の分断化】

人口規模が大きいので消費地として小さくなく、観光地としてもニーズがある当地域では、経済活動において消費と生産の持続可能性について省みられていない現状があり、個々での業務や身内での関係性にとどまっている。そのため、地域内における相互補完や連携が乏しく発展性の機会を損失していることや、情報発信力が低く集客効果が発揮されないことで、新たな顧客・訪問者の増加に苦慮している。

■ 何と何の地域課題の解決に取り組むか

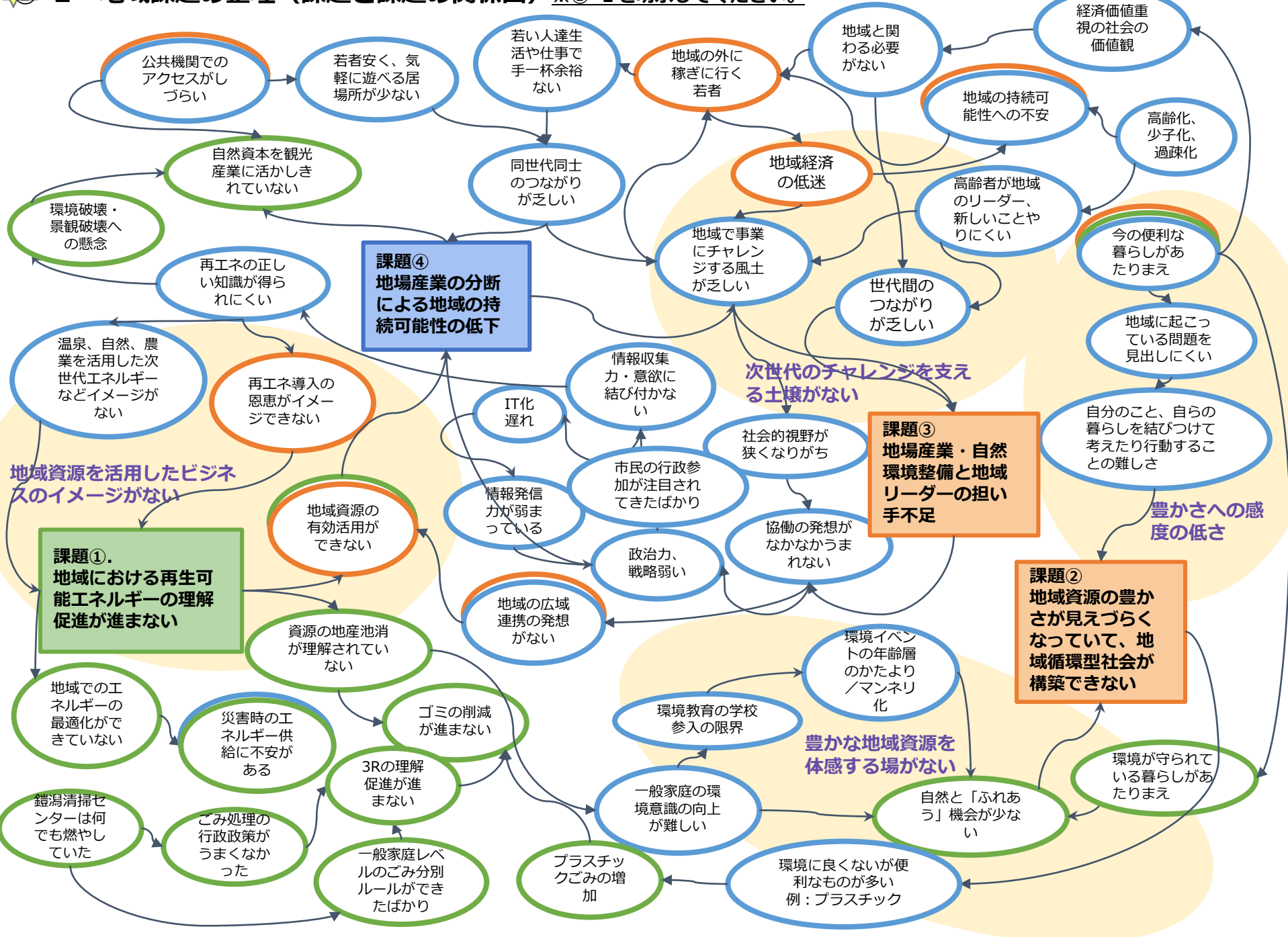
①地域における再生可能エネルギーの理解促進が進まない

②地域循環型社会の構築ができない

③地場産業・自然環境整備と地域リーダーの担い手不足

④地場産業の分断による地域の持続可能性の低下

①-2 地域課題の整理 (課題と課題の関係図) ※①-1を明示してください。



② 事業の整理 (同時解決マップ)



最終
目標

【解決した地域の状態】

地域が主体となった岩室地区のビジョンに基づいて以下のことが達成できている状態。
 ①地域資源(自然、歴史、人、場所、資金)を活用した地場産業が環境配慮型地域ブランドとして確立している。
 ②地域資源循環型社会の構築に貢献する事業へのチャレンジを応援する地域として認知され、関係人口が増加している。

この取組 (5年間)
で何をを目指すか

・“若手”がチャレンジできるプラットフォームの創設 (事業基金や情報発信などを確立)

・自然環境と地場産業を活かした環境配慮型地域ブランド (ビジネス) への展開

2カ年の
成果目標

未来への展望と期待の創出

・岩室地域の未来マップづくりによって、地域のビジョンが、地域内外の関係者に共有される

協働の発想の創出

・地域の人に「ヨソ者」との協働の価値が伝わる
 ・地域内の連携の価値の再認識
 ・自発的な関わりの創出

岩室地区のフォロワーを増やす

・地元の人
 ・アーティスト
 ・リピーター

具体的事業案を作る

・再生可能エネルギー
 ・地場産業 (観光、農業)
 ・プラスα (今後見つかるはず)

取組の
アイデア

豊かさの可視化 (WS)

・岩室地域の未来マップづくり
 ・豊かな自然環境の再認識 (地域資源の再評価)
 ・豊かな資源や環境が枯渇しないために必要なことをみんなで考える
 ・映画「おだやかな革命」などの上映会

岩室地域と温泉街の現状把握 (人とテーマの分析)

・温泉街での生活や交流関係
 ・地元の若もの、若手農業従事者、女性たちなどの声をヒアリング

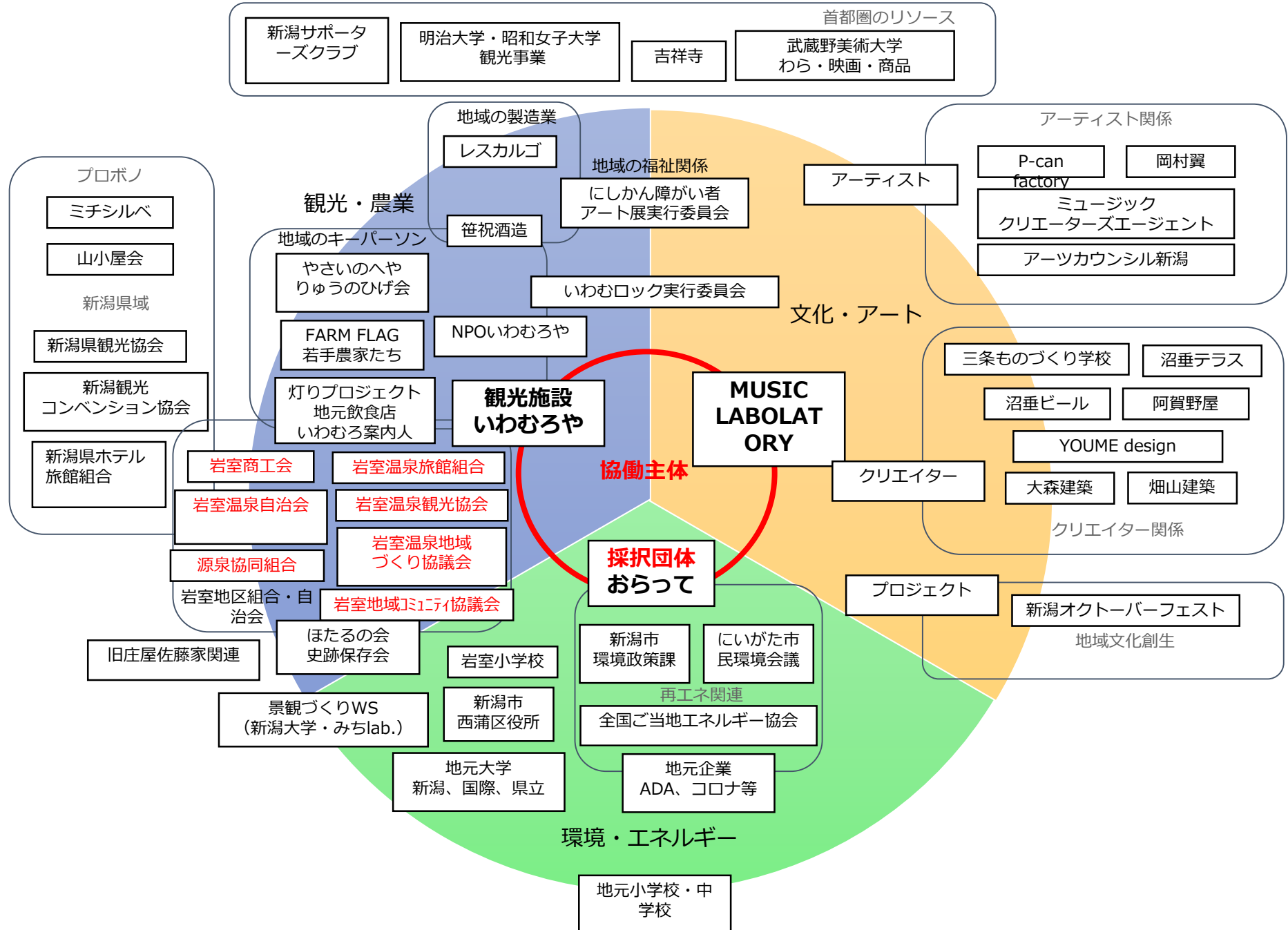
情報や視野を広げる

・暮らしと「環境」「エネルギー」「観光」の勉強会
 ・農業と地場産業と環境意識した方々の講演会または視察
 ・暮らしや温泉街での生活の見直し

企画体験型の環境啓発

・企画から子どもとやる「子ども会議」
 ・いわむロック・FESTIVALにて地域内と地域外の参加者と地域資源を考える企画
 ・「食育をテーマにした体験ツーリズム」の展開

③ 運営体制の整理 (ステークホルダーとの関係性)



④ 平成30年度末までの到達目標

項目	目標 (課題に対してどの程度解決に繋がる取組が進められるか)
<p>【取組課題①】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域における再生可能エネルギーの理解促進が進まない 	<ul style="list-style-type: none"> ◆岩室地区の関係者が地域資源や自然資本を活用した暮らしと産業のイメージができるようになる ◆岩室地区において実現可能性の高い再エネ事業の見通しが立つ
<p>【取組課題②】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の豊かさが見えづらくなっていて、地域循環型社会が構築できない 	<ul style="list-style-type: none"> ◆岩室地区内外の人に、アート・文化を活用した地域の魅力を体感する機会を提供し、「豊かな地域とは何なのかを考えるきっかけを与える ◆岩室地区の住民が、持続可能な岩室地区のあり方という視点を持って、環境・農業・観光などの各自が携わる分野からのつながり方を見出す
<p>【取組課題③】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地場産業・自然環境整備と地域リーダーの担い手不足 	<ul style="list-style-type: none"> ◆今まで地域の担い手として活躍してきた人達の想いやニーズを聞き取ることで、新しく地域の担い手になろうとする人の活動を応援する機運を高める
<p>【取組課題④】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地場産業の分断による地域の持続可能性の低下 	<ul style="list-style-type: none"> ◆課題①～③への取組の中で、地域の現状を把握し、より効果的に本事業に結びつける方策を考える

⑤ 本事業計画の見直し

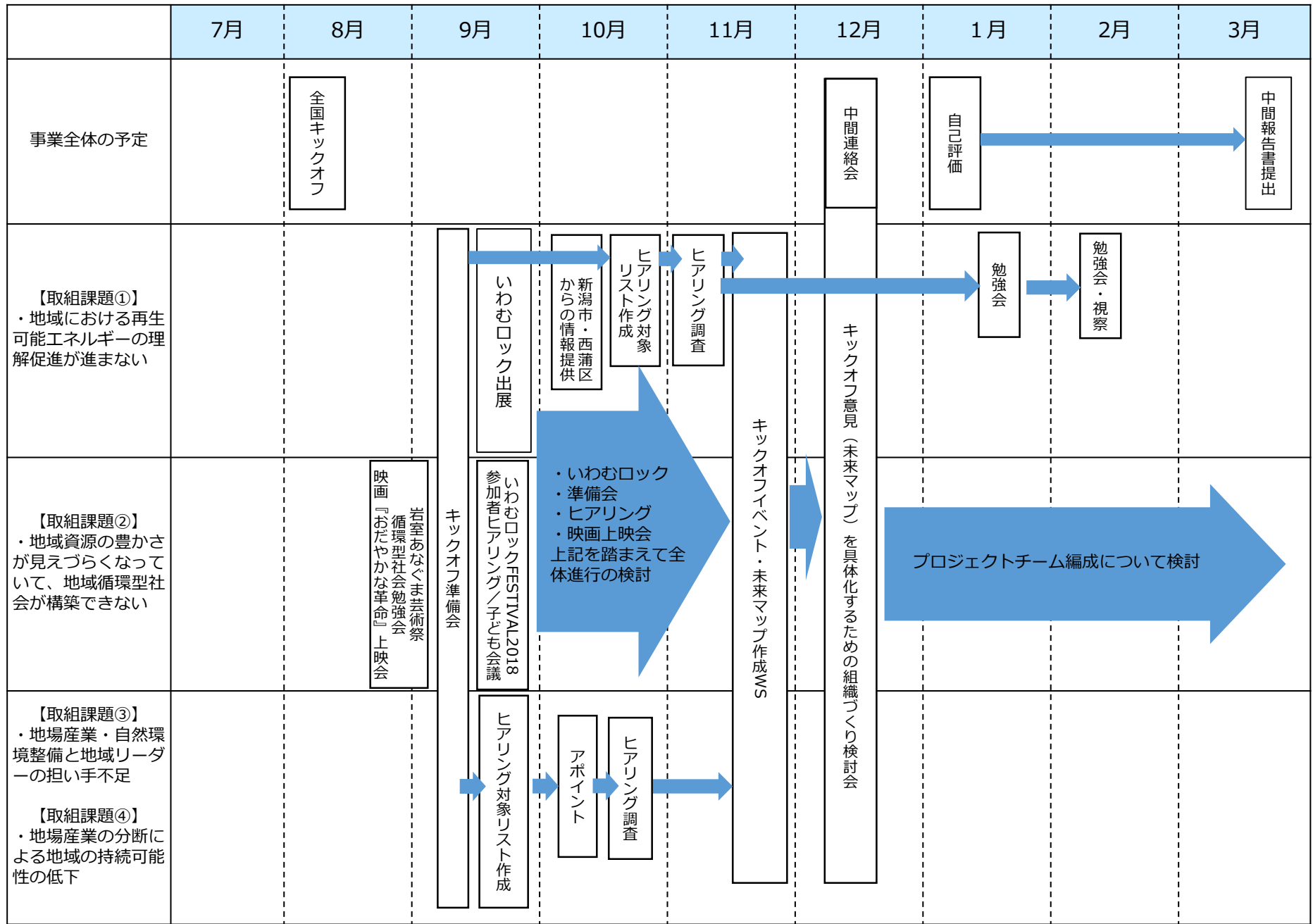
■ 事業期間内（2カ年）の到達目標

項目	目標 (課題に対してどの程度解決に繋がる取組が進められるか)
【取組課題①】 ・ 地域における再生可能エネルギーの理解促進が進まない	◇ 地域資源や自然資本を活用したビジネスプランが策定されている
【取組課題②】 ・ 地域資源の豊かさが見えづらくなっていて、地域循環型社会が構築できない	◇ 岩室温泉街における地域循環型社会のモデルイメージの完成し、地域住民および関係者と共有され、それに基づいた活動や事業の芽が生まれる → 岩室地域内外のメンバーで形成されるプロジェクトチームが形成される
【取組課題③】 ・ 地場産業・自然環境整備と地域リーダーの担い手不足	◇ 岩室地区の住民が、地域の担い手作りの重要性に気付き、地域外の人とも協働しながら、具体的な支援策を検討し始める
【取組課題④】 ・ 地場産業の分断による地域の持続可能性の低下	◇ 課題①～③への取組の中で、地域の現状を把握し、より効果的に本事業に結びつける方策を考える

■ 5年後（事業期間終了から3年後）の取組と地域像

取組の状況や地域課題に対してどのような影響を与えているか
<ul style="list-style-type: none">・ 「未来マップ」に関連した地域資源を活用した地場産業の展開が生まれている(課題①、②)・ この新しい地場産業が環境配慮型地域ブランドのモデルとして認知されている(課題①)・ 地域資源循環型社会の構築に寄与する事業へのチャレンジを応援する地域として、認知され関係人口が増加している(課題③、④)

⑥-1 課題解決に向けたスケジュール（平成30年度）



⑥-2 課題解決に向けたスケジュール（平成31年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
事業全体の予定												最終報告会
<p>【取組課題①】 ・地域における再生可能エネルギーの理解促進が進まない</p>	事業検討会・勉強会	事業計画を実現するための様々な活動							事業検討会・勉強会	今後の活動に関する今後の検討会		
<p>【取組課題②】 ・地域資源の豊かさが見えづらくなっていて、地域循環型社会が構築できない</p>	プロジェクトチーム会議	プロジェクトチーム会議	プロジェクトチーム会議	プロジェクトチーム会議	プロジェクトチーム会議	いわむロック出展	プロジェクトチーム会議	プロジェクトチーム会議	プロジェクトチーム会議	今後の活動に関する今後の検討会		
<p>【取組課題③】 ・地場産業・自然環境整備と地域リーダーの担い手不足</p>	関係するイベントや企画とのコラボ、関連付け									今後の活動に関する今後の検討会		
<p>【取組課題④】 ・地場産業の分断による地域の持続可能性の低下</p>	関係するイベントや企画とのコラボ、関連付け									今後の活動に関する今後の検討会		
											プロジェクトの継続、事業実施に向けた活動	

⑦ その他補足事項

■ 事業を進める上での課題やリスクとその対策

- ・ 地域内の人間関係、軋轢
→ 地域で信頼のあるキーパーソンを巻き込む
- ・ 「未来マップ」（指標）の具体的なイメージを持つことが地域内の目的や理念に結び付き事業推進へむかう絶対要素だが、関係者が納得するものをどうやって作るか
→ SEPLSレジリエンス評価指標のような5つの要素をもとに、岩室地域の評価指標を地域が納得しながら作成する。

■ その他、留意事項などがあればお書きください

・